

## 2 幼稚園・小学校合同交流活動指導案

### (1) 活動名『仲良くなろう』

平成 21 年 10 月 26 日 (月) 体育館  
13 時 30 分～14 時 15 分  
園児 幼稚園 5 歳児 29 名  
児童 小学校第 5 年生 1 組 32 名  
指導者 小学校教諭・幼稚園教諭

### (2) 学習・活動のねらい

- 幼稚園 ・5 年生と一緒に遊ぶことを通して、小学生、小学校に  
親しみや憧れの気持ちをもつ。  
・5 年生から話しかけられたら言葉で答えたり、自分の思いを言葉で伝えたりする。
- 小学校 ・年長組に積極的に話しかけ、かかわりを深めることができる。  
・交流活動を通して、年長組への理解を深めることができる。


### (3) 内容

幼児の実態

- ・いろいろな遊びや活動に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組もうとする幼児が多い。
- ・友達と遊ぶ中で、自分の気持ちや考えを相手に伝えようとしていたり、相手の気持ちを感じたりする姿が見られるようになってきているが、言葉を通してうまく伝えられなかったり、理解できなかったりしている。

児童の実態

- ・男女ともに仲が良くトラブルもなく穏やかなクラスである。人懐こい。年度当初は、自分の考えをなかなかもてない児童が多かったが、主体的に動く児童が増えてきた。
- ・体を動かして活発に遊ぶ児童が多く、休み時間になると、男児はほぼ戸外に出て、サッカーやドッジボールをして遊んでいる。女子の半数もその仲間入りをして遊んでいる。

幼 児 の 活 動 ◇教師のかかわり	活動の流れ	児 童 の 活 動 ◇教師のかかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・靴を履き替える。</li> <li>・集合場所に集まる。</li> <li>・あいさつをする。</li> <li>・今日の流れを聞く。</li> </ul>	<p>「お久しぶりです！の会」を行う</p> <p>活動の流れを確認する。</p> <p>交流する（活動する）</p> <p>グループごとに体育館で遊ぶ。 (活動) 跳び箱 鬼ごっこ だるまさんがころんだ 平均台 マット 中あて リレー</p> <p>「おわりのかい」を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童たちで進行する。</li> <li>・めあてを立てる。</li> <li>・積極的に話かけよう。</li> <li>・歓迎の言葉を言う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6 グループに分かれて、用意した遊びで一緒に遊ぶ。</li> </ul> <p>◇困った時はグループで協力して解決させる。 ◇自分から話しかけることを事前に指導すると同時に活動中にも声をかける。 ◇安全に活動できるよう、事前に指導すると同時に活動中も声をかける。 ◇年長児も 5 年生も楽しいと感ずることができるよう声をかける。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5 年生と一緒に鬼ごっこを行う。</li> <li>・グループの友達と設定されたコーナーを回る。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を話す。(希望者)</li> <li>・お礼の言葉や帰りのあいさつをする。</li> </ul> <p>◇忘れ物がないか確認する。</p>	<p>「また会おうね！の会」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年長組に感想を聞く</li> <li>・「また、会おうね」とあいさつをする。</li> <li>・見送る。</li> </ul>

## 活動例 跳び箱

5年生が跳び箱を用意し、「跳び箱やったことある？」と幼児に聞く。Y児は「幼稚園にも跳び箱あるんだよ。僕、5段の横でも縦でも跳べるんだよ。」と言い、他児も「やったことある」と答える。5年生は、「じゃあ、大丈夫だね。これやっごらん。」と声をかける。

Y児は繰り返し跳ぶことを楽しむが、R児、S児、H児はうまく跳べず「またできなかった」「もっと低いのがいい」と担任に言いに来るようになる。5年生は、励ましたり「こうやっごらん。」と教えたり、次の遊びを提案したりするが、Y児を始め、R児たちは「跳び箱がいい。」と言う。担任は、幼児に対して言いながらも5年生に聞こえるように「小学校の跳び箱も高さや向きが変えられるといいね。」と呟くと、5年生が「そっか、その子によって聞いて変えてみよう。」と、幼児一人一人に応じて、「4段？横？縦？」と聞いて、跳び箱を設定しながら遊び始めるようになった。



### 〈成果と課題〉

#### (幼児)

- ・幼稚園にはない遊具で遊ぶことやさまざまな遊びを小学生と共に行うことは、新しい遊び方を身に付ける機会となった。特に、跳び箱（事例）は、「小学校の跳び箱でも跳べた・跳べるようになった」と自信につながった。
- ・前回の交流を生かして、5年生も顔見知りであり、幼稚園児に積極的に話しかけてくれたりスキンシップを図ってくれたりしたこともあり、幼稚園児も自分がしたいことを、5年生に言葉で伝える姿が多かった。

#### (児童)

- ・「小さい子が苦手!」「小さい子は生意気で可愛くない」といったマイナス的なイメージをもつ児童が多かったが交流を積み重ねていくことで、「小さい子が可愛い」「もっと遊びたい」という意見が出てくるようになった。交流の中でも、自分から積極的に話しかけたり、かかわったりする姿が多く見られるようになった。
- ・継続した関係を築けるようにしていきたい。